

王育徳恩師を偲んで

TIŌ SūnBūn (趙順文)

2024-0908 成功大学にて

蔣為文教授から「王育徳博士追悼国際シンポジウム」の講演依頼を受けたとき、手元の『全国大学職員録国公立大学編昭和 55 年版』廣潤社で調べたら 1861 ページに明治大学商学部所属の「教授 文博 王 育徳 大 13 東大 中国語」に関する一行が載せられていた。あつという間にわが師が今年で生誕百年を迎えることが分かった。「夢路にて また逢ふもよし わが師かな」とありし日のことが眼前に走馬灯のごとく髣髴とした。王育徳恩師との出会いは、私の後半の人生に大きな影響を与えた。

思うに故郷の高雄工業高専（現、国立高雄科技大学）を卒業後、空挺部隊 2 年間の兵役についた。その後新北市のある化学工場で働き、安穩を得たと思った 2 年目、オイルショックが起こり、工場が閉鎖されてしまった。これがきっかけとなり、東呉大学日本語学科 2 年次編入試験に合格し入学することになった。1979 年 4 月、日本台湾交流協会の留学生奨学金を得て、戦前、学校卒業前の内地旅行が叶えられなかった母の夢を私が代わりに日本留学 4 年として実現させた。

1979 年ごろ京都大学研修員時代、梵語に大地原豊教授・小林信彦助教授、西夏語に西田龍雄教授がおられた。1979 年 10 月 26 日の夜、テレビで台湾と友好的関係を維持し続けてきた韓国の大統領朴正熙が暗殺されるというニュースが流れた。台湾と韓国は、当時の日本社会から「反共だが、民主国家ではなく、独裁国家だ」と位置づけられていたのにはっと気づかされた。海外で見たこのテレビニュースも衝撃的で忘れがたい。

同年 12 月 10 日、世界人権デーに故郷の高雄で美麗島事件が起きた。警察に加えて悪名高き台湾警備総司令部が 7 個憲兵大隊を出動させ鎮圧したニュースが衝撃的に報道された。

1983 年 4 月、東京外国語大学大学院在学中、王育徳先生の担当された「中国語特殊研究」をおそるおそる履修し、先生が書き上げたばかりの『台湾語入門』を教わった。先生は授業中いつも笑顔を絶やさず、温厚篤実で信念を貫き通す情熱の学者であった。授業直後、先生から「この講座を受けた台湾人留学生は君が初めてだ。勇気ある行動だね」とはっぱをかけられ、「専任の明治大学の授業よりも東外大のこの授業を楽しみにしている」と続けられた言葉が脳裏に深く彫みこまれている。ちなみに「キャンパスの 中にうごめく スパイかな」と「念のため公の場で『台湾 (taioan) 』と掛け言葉となっている『大原 (taigoan) 』の「おおはら」と呼んでくれ」という恩師の温かい思いやりがじっと胸に染み透った。その後の一年間授業後、しばしば恩師とカツ丼や天井など昼食を共にした。恩師

は言語学者服部四郎教授の指導下で厳密な実証主義と経験科学の方法論に基づいて『閩音系研究』を完成させ、1968年に文学博士学位を取得、翌年の1969年からご逝去の1985年までこの台湾語講座をご担当された。

恩師のお招きを受けお宅を訪問したことがある。かなり質素な一戸建て、しかも王育徳記念館での展示通り、学者とは思えないぐらい純朴な雰囲気の家だった。その一角には雑誌『台湾青年』が山積みになっており、ご自身で切手を貼ってご郵送されると伺った。おぼろげな記憶だが、階段の隅に二段ベッドがあり、ちょうどお孫さんが就寝しているところだった。学者兼革命家の真の心温まる隠れ家だなあとつくづく感じさせられた。

また日本留学の友人が病を得て途方にくれていたが、恩師から東大医師の女婿をご紹介いただき、筑波大学病院で女婿の恩師である当時東大で国手と言われた教授に立ち合いいただき手術を受け、完治したことも恩師の義侠心の思い出であった。

恩師のこうした義侠心が公憤に向かった例が、人生晩年の10年間を捧げた「台湾人元日本兵士の補償問題を考える会」の発足だった。裁判官を含めた旧台北高等学校（現、国立台湾師範大学）同窓の日本人に協力を求め、支援活動から訴訟提起にまで至った。そして、1987年、「台湾人元日本兵の戦死傷者に対し全員に一律200万円総額590億円を支払う」という日本国国会決議による特別法制定に結実する。国交のない台湾を対象とした本法制は異例の事だった。

590億円という金額は、311東日本大震災に際して当時世界一とされた台湾からの義援金220億円超を遥かに凌ぐ。我が心中の感慨を一句とする。「夢一つ命かけてや 実の稔る」。

冬休みの里帰りの折、日本に持ち込んだ台湾の「蕃石榴」を恩師が受け取られた一瞬の嬉しさに耀いた不思議な目の表情に、悲しさを感じさせられた。

東外大でわが師の学恩に浴しつつ、「言葉は民族の魂である」という終生変わらぬ信念を受け継いで、本分の日本語学研究に専念するかたわら、台湾語教育の促進に貢献する決意を固めた。

一方、台湾には「台湾の党外人士・海外の異議分子と共匪」を「三位一体の敵」と名付け、政府の敵として大々的に糾弾する殺伐たる雰囲気が漂っていた。アメリカでは地球上から国民党を消失させることを目標に、ロサンゼルスで創刊された許信良の『美麗島週報』海外版と台湾独立連盟日本本部で発行された『台湾青年』が一部の留学生の間で読まれていた。私も定期的に購読した。東外大の留学生控室にそれを、台湾留学生の持ち込んだ「中央日報」や「聯合報」海外版に重ね合わせて置いておくと、翌日決まって『美麗島週報』と『台湾青年』のみが消えているのが常であった。民主主義の根幹をなすウォルテールの名言「私はあ

なたの意見には反対だ。だがあなたがそれを主張する権利は命をかけて守る」という考え方は、蔣政権の教育行政がおしつけた教科書で洗脳された台湾人留学生の頭の中には微塵も生まれなかったのだ。

日本の「国語」の概念は、そもそもヘーゲルの考え方を受け継いだとされるビスマルク鉄血宰相政権の民族精神の謳歌時代に、東京帝国大学教授上田萬年を師と仰ぐ保科孝一が同じくドイツ留学し、ドイツ語の *Staatssprache* を「国家語」と翻訳したことに源を発する。これが、更なる発展を遂げ拡散され、台湾・朝鮮・中国・ベトナムに定着するようになった。誰が意図したかは問わずとも結果は不思議と言えれば不思議であろう。

1984年2月、京都大学留学時代から知己を得ていた京都産業大学 清河雅孝助教授を大雪の中訪問した。五年ぶりに膝を交えて旧交を温めると同時に、中国の現状分析と将来予測について意見を伺った。その折、「中国は、現在、あたかも『蠅取り紙』のように日本・アメリカを含む世界各国からの膨大な資金を吸い込んでいる。このまま50年後いや40年後には、得体の知れぬ『超怪物の国家』まで発展するに違いない」と断言された言葉が忘れられない。今思い起こすと、まさに予言を超えた核心をついた卓見であった。

1986年ごろ、陳永興医師のご推薦で北米台湾人教授会のアメリカ短期研修の貴重な機会を与えられた。その機会を生かしてワシントン DCにある国会図書館を見学した。言語ごとに図書館管理人がおり、その言語を母語とした帰化した米国人が配されていたのを見て、アメリカ合衆国の適材適所の包容力に敬意を覚えずにはいられなかった。幸運にも陳永興医師のご指名で林宗義先生の大作『精神医学への道—東西文化に跨って』の中国語訳を頼まれた。

1987年3月、東外大で恩師王育徳先生と付き合いを持ったこと、日本で好ましくない言論をしたこと等が密告されて、危うく東呉大学の職位を失いそうになってしまった。蔡茂豊師のお力添えを頂き、ありがたいことに始末書と自宅謹慎一年という懲戒処分が事おさめられ、その一年をフランス「留学」に当てた。1988年1月13日、フランス・アンジェ西部カトリック大学 (Université Catholique de l'Ouest) 留学中の下宿先で蔣経国の急死を伝えるテレビニュースに接した。「中国共産党との戦いに負けて、台湾に逃げ込んだ独裁者の蒋介石の息子」という微妙な表現の速報だった。

思うに台語の書記言語化については今まで「全漢字文」と「全ローマ文」の「白話字」の二派の論争が繰り返されていた。

「全漢字文」はもっぱら中国文学出身者が提唱したものだが、台湾語の基本語彙には、漢字で表現できないものが多い。学者たちがそれぞれの仮説で牽強付会してこれらの語彙を漢字に宛てる様は、古代の日本の「万葉仮名文」とかベトナムで過去に独自に作られた漢字である「字喃 (チュノム)」を彷彿させてしまう。

これに対し「白話字」は、主に台湾本土のキリスト長老教会信者が聖書を台語・客語・原住民語を含む台湾語で読むときに使われる表記法や、欧米に留学した言語学専門家が主張したものである。上記二派の折衷案として、日本語の「漢字かな交じり文」にならい、あくまでも台湾字である「白話字」への実現の過渡期として「漢字ローマ字交じり文」が提唱された。この第三案は、ハワイ大学の鄭良偉教授によって提唱され、1990年、初めてのテキスト『生活台語』（鄭良偉・方南強・趙順文、自立報系）も具体化して出版され、3年後の1993年10月、『生活台湾語日本語版』（黄素吟・寺山末吉（故、新藤明彦）・齋藤齊）が日本人向けに自費出版された。恩師王育徳先生もこの観点に賛成の意を寄せられた。

1990年9月10日、台北市大安区の金華国民小学校で初の台湾語の授業「学説台語」が課外活動として実験的に始まった。これは台湾語の言語教育史上ないし台湾史上初めてのことであり、画期的な日であった。教師は、民間の語学学校で長年にわたって台湾語教育に携わってきた方南強氏、台湾語文研究会の趙順文東呉大学副教授、台湾語による民謡指導に当たった音楽家簡上仁氏の三人であった。授業は三分の二が会話の時間、あとの三分の一が童謡や民謡を中心とした芸文の時間にあてられた。これをきっかけに、台湾の多くの小学校が追随の気配を見せた。特に宜蘭県では黄春明氏の指導の下で台湾語の教材を作成し、1991年3月小学校の一年生から中学校2年生のすべての生徒を対象に週一回の台湾語授業をスタートさせた。この年は、まさに台湾バイリンガル教育運動の黎明と言えよう。

この動きと時期を同じく、黄春明氏は、国民党政権の華語強制政策の下で母語を使って思うような感情表現できなくなる台湾人の状態を「失語症」に陥っていると警鐘を鳴らしていた。そして、台湾人の「本土教育」に精魂を傾けて尽力した。これによってみずから自分の言葉を取り戻すことが可能となり、台湾文化を高揚させることができるという文化論を打ち出した。しかし、惜しいことであるが、氏の論点には、自分の言葉を取り戻す上で、さらに一歩進んで書記言語を構築しようという観点が欠けていた。氏の言語観には、「国家語」の意識が足りないからにはほかならない。

こうした意識が伏線となり、2011年5月24日、日本で作品『さよなら・再見（ツァイチェン）』で台湾の中国語作家として知られていた黄春明氏が台南国立台湾文学館の講演会の折、会の席上で意見を述べた蔣為文・成功大学副教授を面責し、これが「罵倒」とされ後に名誉毀損で有罪判決を得た。このいわゆる「黄春明事件」も後述の「華語ストックホルム症候群」の「依存症」の冰山の一角にすぎないであろう。

2019年1月9日、法律化された「国家語言發展法」において「原住民語・台湾語・客家語・華語はいずれも国家言語でありかつ平等である」と規定されて、

政府機関において必要に応じて各言語の通訳者の提供が義務付けられている。故蔡同栄氏を除き、与党野党の国会議員すべてが国会で自分の語族に属する口頭言語をあえて使おうとはせず、もっぱら華語ばかり操っている。

甚しきは、ふだん台湾人意識の大旗を掲げた陳芳明・黄春明などの文学者・呉密察故宫博物院院長などの歴史家、言語学者、言語教育者の多くが無様にもそうした体たらくなのだ。彼らは、「口頭言語として日常生活会話レベルで母語の存在意義は十分に間に合っている」という基本認識があり、「書記言語をわざわざ構築して使う必要はない」と主張しているのだ。自分の「母語」を自らの手で「国家語」として法律明文化されたにもかかわらず、その神聖な地位から引き下ろし、権利を放棄してしまった。多勢に無勢とばかりに華語に飲み込まれ節操を捨てた有り様は、「ストックホルム症候群」で脳髓を破壊された語族としか言いようがない。

なぜこの語族が母語を放棄して華語にここまで身を沈めるのだろうか。あくまでも私見ではあるが、その理由を三点挙げてみたい。1. 既得権益の確保、2. 洗脳教育の効果、3. 言語知識の不足である。台湾語口頭言語は死語となったことはなく、生きた言語として今も使われていることはもちろんのこと、書記言語の台語「白話字（ペーオエジ）」の聖書は、1881年に、おなじく台語白話字の新聞紙「教会公報」が1885年に発行されている。百年前にすでに存在し、今も脈々とその命脈はたえることがない。こうした好材料に基づいて「国家語」たる必須条件が揃っているのが現今なのである。それ故有識者たるもの、華語に盲目的に依存する固定観念に縛られて、自分の口頭言語ないし書記言語をみずから放棄するようでは、「華語ストックホルム症候群」に毒され「依存症」の態をなしているとの一語に尽きる。

これとは真逆の例として称賛すべきは、元々中国文学者だった呂興昌師の生き様である。師は清華大学中国文学科・成功大学「中国文学科」を経て、成功大学「台湾文学科」に転向し、母語の「文盲」を深く恥じて、台湾字である「白話字」を完全に習得したのだ。白話字で書かれている長老教会の「教会公報」の史料に基づいて、何名かの大学院生を指導し学位取得に導いた。その芳名も台湾文学史の一ページに榮譽として残るであろう。ちなみに元中山大学英語講師だった李勤岸氏も1986年、政治問題で余儀なく辞職させられた矢先に、「教師人権促進会」を発足させ、その後ハワイ大学で鄭良偉師の指導の下、1994年に修士、2000年に博士学位を取得された。踵を返し台湾に戻り、台湾師範大学台湾文学科で教鞭を取り、「白話字」復興活動に尽力された。

私の知る限りでは、台湾大学・清華大学の言語学研究科と台湾大学・政治大学の台湾文学研究科においては、「言語学」と「台湾文学」を掲げながら「台湾語」で執筆された修論ないし博論の例はゼロに近い。ちなみに張裕宏師は台湾大学

退職後、精魂を傾けて 2200 ページにわたる『TJ 台語白話小品典 2009 年版』『TJ 中台字詞典を 2023 年版』を上梓した。これは戦後台湾で初めて台湾人の言語学者による白話字辞典であり、その名声は後世に語り継がれるであろう。「四十年休む日もなく 歩みけり」と一句を作り、師に捧げる。

1991 年 8 月、不肖私は、于乃明先輩という「貴人」のご協力を得て政治大学に新しい職場を得た。帰属意識が中国か台湾かというナショナル・アイデンティティに関わってくる専任教員の祖籍は、イデオロギーとは切り離せない問題である。当時の『国立政治大学教職員録 1991 年 12 月』の記載を拾ってみると、中国籍と台湾籍の比率は、各職場で以下のようなようだった。中国文学科では 21 名対 16 名（以下略）、教育学科では 13 対 8、歴史学科では 12 対 5、哲学学科では 10 対 3、法律学科では 10 対 9、政治学科では 16 対 8、外交学科では 13 対 3、東亜研究科では 4 対 3、三民主義研究科（現、国家発展研究科）では 4 対 3、民族研究科では 4 対 3、新聞学科では 16 対 7、テレビ放送学科では 7 対 2、英文学科で 22 対 18、軍訓教官室では 16 対 6、付属国際研究センターでは 8 対 5 という実態が記録されていた。いずれも量的に中国を祖籍とした専任教員が台湾籍を遥かにしのいでいた。もっとも 1992 年以降、大学の教職員録の祖籍記載は撤廃され、出生地のみが記載されることになった。よって台湾生まれの教員が 100 パーセント近くを占めることになっている。

台湾内政部統計局の調査（2015 年度）によると、四大語族のうち、台湾語族 73%・客家語族 12%・原住民語族 2.33% 合わせて台湾語族は 87% 強の本省人と、華語族は 13% の外省人になっている。政治大学では戒嚴令解除前まで教員採用の際にあまりにも露骨にも外省人一辺倒を綿密に考慮して人事が決められていたという一語に尽きる。

奉職中、第二外国語としての「初級日本語」を台湾語で授業するのは政治大学での前代未聞のことなので、一部の人から怪訝そうな目を向けられていたが、譴責されることなく、無事に済んだ。特筆すべきはこのクラスで受講者が一番多かった香港の留学生に聞いたら、日本語に加えて台湾語の勉強につなげると答えたことである。カントン語の母語話者ほど自分の母語をこよなく愛する語族は世界にも非常に珍しい存在であろう。百年前の清朝時代に苦力としてアメリカ、フランスやカナダに連行され、重労働を強いられたカントン語族の人々の第三代目ないし第四代目の子孫が欧米各国に散在している。彼らは、それぞれの国の国籍を持っており、現存の中国と中国「普通語」政策と一切関係なく、家庭内できちんとカントン語を使い続けている。「言葉の魂」の存在の不思議さに感慨に深いものがある。願わくば近いうちにイスラエルのように世界各地に散っているカントン語族はどこかの土地に住居を構えて自分の言葉を母語とした国を作ってほしいところだ。

政治大学留学のベトナム人大学院生丁玉蘭君を家庭教師として迎えて、週一回、2時間のベトナム語の勉強に取り組んだ。1995年、政治大学教授として「日越両語の漢字語の比較研究」を題とした研究計画で交流協会研究者助成金を得て再度日本留学の機会を得た。しかし、一身上の都合により辞退せざるを得なくなった。そのかわりに、僭越ながら私の推薦で中央研究院焯城研究員の助手をしていた洪惟仁氏が「小川尚義の研究」と題とした研究計画で研究者助成金を得て、東外大で本格的な研究の道を拓き始めることになる

洪氏は、帰国後清華大学で言語学博士を取得し、元智大学そして台中教育大学を定年退職するまで、名実ともに台湾社会言語学の第一人者として活躍された。もっとも、洪氏が中国本土でも使わない「閩南語（門下で言う虫類の人間が使う言葉という中原からみた周辺世界への蔑視がふくまれる）」を執拗に使用することには、私は抵抗感を感じずにはいられない。確固たる「国家語」意識に基づいて「台湾語」と表現することが適切だと私は感じているからである。言語学的には極めて近いマレーシア語とインドネシア語は二つの「国語」として分離され意識され、北欧語のデンマーク語・スウェーデン語とノルウェー語も3つの別の「国語」というように意識される。このように国別に言語が位置づけられるのは、確固とした「国家語」意識があつての上と考えられるからだ。

皮肉なことにも1972年まで台湾と正式な国交を持っていた日本では、学長が台湾の大学との国際交流に好意を示したとしても、社会主義志向の教授が多い国立大学の教授会ではどうも可決するわけにいかないことと相まって、台湾では蔣政権の反日政策の下で天下りの学長のほとんどが日本の大学と国際交流を積極的に推進する意欲もないので、戦後から1997年まで日本の国立大学と台湾の大学との姉妹校協定が一枚もないのも当然であった。

台日断交後、中国政府は台湾問題で日本にさらなる圧力をかけていたため、日本政府は日本の国立大学が台湾の大学と正式な姉妹校協定を結んで学生交換を行い、交流することを認めていなかった。

これをふまえ、不肖私としても母校の論文博士第一号としてこの膠着状態を打破しようと決心し、母校（中嶋嶺雄学長）と政治大学（鄭丁旺学長）との姉妹校協定締結に微力ながら尽力した。当時、文部省の正式な認可を得るまでは公表が憚れていた。すべては極秘で中嶋学長の執務室で関係者だけが集まって内容が煮詰められ、晴れて戦後初となる日本の国立大学と台湾の大学の姉妹校調印式を迎えられたのである。爾後、日本の諸大学が我々の引いた道に続くことになる。

中嶋嶺雄学長は、任期中（1995-0901～2001-0831）中国語史料の読解には台湾の繁体字の学習が不可欠だと考え、指導要領の項目として中国語学科にこれを導入すると同時に、今まで大学で非常勤講師がやっていた台湾語についても、姉

妹校の国立台湾師範大学の教員を一年間の交換教授として招聘した。数年後、文部科学省との概算要求交渉に自作『三つの中国』を持って、文科省の係官を説得して、台湾語と広東語の専任教員の定員を1名ずつ増やし、王育徳恩師の学恩に浴した樋口靖筑波大学教授をお迎えして台湾語の講義に当たらせることにした。台湾語とカントン語の専任教員枠は、戦後国立大学で前例のないものであった。

1999年8月、陳明姿教授と知遇を得てお引き立て賜り、学科評議会で可決した。台湾大学奉職中、元国民党海外工作委員会副主任の高級幹部何瑞藤氏が天下りのように台湾大学教授へ転身して来たことを知って、驚きと失望感を禁じ得なかった。しかし、顧みるに台湾大学日本語学科の創設者として日本語学・日本文学ないし日本文化の人材育成には、何氏の貢献するところ大であったと認めざるを得ない。

一部の同僚の反対を押し切って、台湾の国公立大学でのベトナム語・インドネシア語・タイ語・マレーシア語などの東南アジア諸言語の開講を学科評議会で可決させた。爾後の蔡英文政権の南方政策の人材育成につなげたと自負している。台湾語で学科会議主催、院生のゼミはもちろんのこと、文学部新生歓迎会など公の場合にはできるだけ台湾語を使って、その促進を図っている。

ちなみ柯慶明教授（故人）のご要望で戦後、台湾大学台湾文学研究科で初の白話字の台湾語講座を一年間担当した。

ちなみに戦前、台湾公立台中中学校（現台中一中）を卒業され、大阪で起業が成功して巨富を築き上げられた林義久会長が毎年200万円、三年続けて600万円を台湾奨励金として郷土愛の強い学生に渡してほしいと私に一任してくれたことである。2008年7月31日、私の台大奉職の最終日、後任の徐興慶学科長が当時の葉国良文学部長と共に学科事務室に訪ねてきた。もともと中国意識の強い二人は、台湾奨励金が「私は中国人ではなく、台湾人である」という濃厚な台湾人意識を強調していることから、中国人意識と衝突することを恐れ、せつかくの林会長のこの奨励金も、引き継がれないこととなった。残念ながら自然解消されてしまったと聞く。慚愧に耐えない思い出となってしまった。

台日断交前に文部省奨学金を得て東大に学んだ台大同僚趙姫玉先生のご主人黄国彦氏が、恩師王育徳先生の『台湾 その苦悶する歴史』を中国語に匿名翻訳者として出版していたと知って、私は驚きかつ喜び、その勇気に心から尊敬の念を捧げずにはいられなかった。繰り返して申すが、王育徳恩師は、東外大非常勤講師としての台湾語講義を明治大学専任教授のどんな担当科目より何倍も楽しみにしておられた。「生き甲斐を感じた」とポツリと仰っしゃられたのが耳に残っている。在りし日のこの言葉を心のなかで反芻すると、ついに故郷へ帰らぬまま異郷に骨を埋める精神的「苦悶」の声が共鳴するような気がした。没後、ご遺族が蔵書を東外大のアジア・アフリカ言語文化研究所にご寄付されたことは理

由なきに非ずだった。最大たる尊敬の意を表すべく、台湾大学で現職の教授を含む教え子を一堂に集めて前例のない趙姫玉先生の最終講義を大々的に行ったのも懐かしき思い出の一つであろう。

1985 年には、日本時代と蔣政權時代に跨る紆余曲折の人生を送った尊敬すべき恩師（1924-0130～1985-0909）を失った。王育徳生誕百年、没後 39 年の 2024 年の命日前日に生まれ故郷の台南の成功大学で王育徳博士追悼国際シンポジウムを開くにあたり、「泣くな師を 偲ぶ親里 浄土あり」という句を作り、恩師に捧げた。どうかお安らかに、しかし台湾独立達成の「使命」をしっかりと見守っててください。

Siàu-liām 王育徳恩師

TIŌ SūnBūn (趙順文)

2024-0908 tī 成功大學

張智峯 譯

Tng chiap-tiòh 蔣為文教授 ê 委託, beh tī 「王育徳博士追悼國際研討會」講演 ê 時, tō 去 hian 手内 ê 廣潤社所收錄 ê 『全國大學職員錄國公立大學編昭和 55 年版』, tī 1861 頁有 1 chōa 記載明治大學商業學院 ê 「教授 文博 王 育徳 大 13 東大 中國語」。目 chit-ē-nih chiah 知我 ê 老師今年 100 歲紀念。「Tī 夢中 ē-tàng koh 相見, 吾師啊」, 過去 ê tāi-chi tō chhin-chhiūⁿ bák-chiu 前 ê 走馬燈 kâng-khoán. Ê-tàng tng-tiòh 王育徳恩師, 對我後半 sì-lâng ê 人生有 chiāⁿ 大 ê 影響。

想起 ùi 故郷 ê 高雄工業專科學校 (chit-chūn ê 國立高雄科技大學) 卒業 liáu-āu, tī 傘兵部隊做 2 tang 兵。Sòa--lòh-lâi tī 新北市 ê 化學工場 chiah thâu-lō, siūⁿ-kóng ē-tàng 安定, m̄-koh 第 2 tang 發生石油危機, 工場 tō siu-tàⁿ à. Chit-chân tāi-chi chiāⁿ-chò 轉機, 參加東吳大學日本語學系插班考試, khó-tiâu liáu ùi 2 年 ê 讀起。1979 年 4 月, tit-tiòh 日本台灣交流協會留學生獎學金, tī 二次大戰 chìn-chêng, beh tī 學校卒業 chìn-chêng 去日本本地旅行, chit-ê 阿母 bē-tàng 實現 ê 夢 tō hō 我來代替, 實現去日本留學 4 tang。

1979 年 tī 京都大學做研修人員 ê sí-chūn, 教梵語 ê 有大地原豊 (OJIHARA Yutaka) 教授 kap 小林信彦 (KOBAYASHI Nobuhiko) 副教授, 教西夏語 ê 有西田龍雄 (NISHIDA Tatsuo) 教授。1979 年 10 月 26 àm-si, 電視放送 hām 台灣一直維持友好關係 ê 韓國總統朴正熙 (PARK Chung-hee) hông 暗殺 ê 新聞。台灣 kap 韓國, tī hit-tong-si ê 日本社會來看, in lóng 是「顧反共, m̄-si 民主國家, 是獨裁國家」。Tī 海外 khòaⁿ-tiòh chit-kiāⁿ 新聞, 心内 ê 衝擊是 chiāⁿ pháiⁿ 放 bē-kì-tit。

Kâng hit tang 12 月初 10, 世界人權日, tī 故郷高雄發生美麗島事件。警察 koh-ka chiāⁿ 有臭名 ê 台灣警備總司令部出動 7 ê 憲兵大隊來鎮壓 ê 新聞有衝擊性 ê 報

導。

1983 年 4 月，tng-teh 讀東京外國語大學 ê 研究所，王育德老師上 ê 「中國語特殊研究」是皮 tēⁿ chiāⁿ ân chiah 修了，老師 koh 教 tâⁿ 編寫好 ê 《台灣語入門》。老師上課不時 lóng 保持笑容，chiāⁿ 忠厚、chiāⁿ 實在 teh 貫徹 i ê 信念，是 chiāⁿ 熱情 ê 學者。上課 liáu，老師 tō án-ne 鼓勵「上 chit-ê 講座 ê 台灣留學生 lín 是 thâu-chit-pái，ài 有勇氣付出行動」、「比明治大學專任 teh 上課，東京外國語大學 ê 課 koh-khah sim-sek」、「kap sòa--lólh-lái 講 ê 話 lóng 深深記 tī thâu-khak-lāi。Sūn-sòa 講，「tī 校園 lāi-té 有 jiàu-pê-á ǒ」，「ùi-tiòh 慎重，tī 公共場所，『台灣 (taioan)』 hām 雙關語『大原 (taigoan)』，ài 唸「おおはら (OHARA)」。恩師 chiah-nī 溫暖 ê 體貼深深感念 tī 心內。Chiap-sòa ê 1 tang 內，下課 liáu tiāⁿ-tiāⁿ hām 恩師 chò-hóe chiahⁿ tiong-tàu-tng，有 chīⁿ 豬排飯 kap chīⁿ 蝦 á ê 大碗公飯等。恩師 tī 語言學者服部四郎 (HATTORI Shiro) 教授 ê 指導下，以嚴密 ê 實證主義 kap 經驗科學 ê 方法論做基礎，完成《閩音系研究》，1968 年 tit-tiòh 文學博士學位，ùi keh-tng-nī 1969 年開始到 1985 年過身為止擔任台灣語講座。

Bat hō 恩師邀請去 in tau 訪問。是 1 間 chiāⁿ 樸實 ê 透天 chhù，而且 tō chhin-chhiūⁿ 王育德紀念館展示 ê án-ne，hō 人 siūⁿ-bē-kau che-sī 學者，hiah-nī 純樸氣氛 ê 書房。Hiah-ê 一角 á，雜誌《台灣青年》thiap kah kán-ná 山，聽講 i ka-tī 親身貼郵票 thèh-khì 寄。無 kài 清楚 ê kì-tí，樓梯 piⁿ-á-kak 有 2 chàn ê 眠床，kán-ná 是孫 teh khùn ê só-chāi。Hō 人感受 tiòh 學者兼革命家真心 ê 溫暖，藏身 ê só-chāi。

另外，我有 1 ê 留學日本 ê 朋友，i phò^a-pēⁿ，我拜託恩師，chiah 由恩師紹介東京大學醫師 ê kián-sài，tī 筑波大學病院由 chit-ê kián-sài ê 恩師，hit-tong-sī ē-sái 講是東京大學名醫教授來會診，經過手術，病 lóng 治好 à，che hō 我想起恩師熱心助人 ê 俠義心。

恩師 chit-khoán 俠義心面對公憤 ê 例有，tī i 人生最後 10 tang 內發起「台灣人前日本兵 ê 補償問題思考會」。懇求包括 teh 做法官 ê 舊台北高等學校 (chit-chūn ê 國立台灣師範大學) ê 同學在內 ê 日本人協助，ùi 支援活動到提起訴訟。而且 tit-tiòh，tī 1987 年由日本國國會決議制定特別法「全部 ê 台灣人前日本兵戰死、tiòh-siong--ê 一律 lóng 補償 200 萬日票，lóng-chóng 支出 590 億日票」án-ne ê 成果。以無邦交 ê 台灣做對象，制定本法，是 chìn-chêng m̄-bat 有 ê 例。

590 億日票 án-ne ê 金額比，tī 311 東日本大地動 ê 時，世界第一 chē ê 台灣寄付 ê 金額 220 億日票 kē chiok chē。我心中 ê 感慨用一句詩句來表示「有 1 ê 夢 拚性命 tō 有成果」。

Hioh-kôⁿ tng-khì 台灣，tng 恩師 siu-tiòh ùi 台灣 chah 來日本 ê 「niá-poát-á」，有 chit-sī-á ê hoaⁿ-hí koh hō 人想無 ê bák-chiu ê 表情 lāi-té，感受 tiòh 悲傷。

Tī 東京外國語大學一直 siū-tiòh 老師 ê 恩情，一直感受 tiòh 「語言是民族 ê 靈魂」án-ne chit-si-lâng lóng bē 改變 ê 信念，決心 beh 一面專心做本業日本語研究，

一面 beh 為促進台灣語言教育做貢獻。

一方面，tī 台灣「台灣 ê 黨外人士、海外 ê 異議分子 kap 共匪」名 hō-chò「三位一體 ê 敵人」，chiân-chò 政府 ê 敵人，hông 大規模鎮壓，充滿殺戮 ê 氣氛。Tī 美國，hō 國民黨 ùi 地球 téng-bīn 消失做目標，有 tī Los Angeles 創刊 ê 許信良 ê 《美麗島週報》海外版 kap 台灣獨立聯盟日本本部發行 ê 《台灣青年》，一部分 ê 留學生有 teh 讀。我 mā 定期買來讀。東京外國語大學 ê 留學生休息間有 khòng 《美麗島週報》kap 《台灣青年》，hām 台灣留學生 chah--jip-lâi ê 《中央日報》kap 《聯合報》海外版 khòng chò-hóe ê 時，keh-túg-kang kan-taⁿ 《美麗島週報》kap 《台灣青年》無去，che-sī tiāⁿ-tiāⁿ 有 ê tāi-chi。Chiân-chò 民主主義重要部分 ê Voltaire ê 名言「我反對你 ê 意見。M̄-koh 你有主張意見 ê 權利，用性命來守護」án-ne ê 思考方式，tī hō 蔣政權 ê 教育行政所強迫編寫 ê 教科書洗腦 ê 台灣留學生 ê thâu-khak lâi-té 一點 á mā 無。

日本 ê 「國語」概念講起來是 tī teh o-ló 繼承 Hegel 想法 ê Bismarck 鐵血宰相政權 ê 民族精神 hit-ê 時代，尊敬東京帝國大學教授上田萬年 (UEDA Kazutoshi) 為師 ê 保科孝一 (HOSHINA Koichi) kâng-khoán 是留學德國，i kā 德國話 Staassprache 翻譯做「國家語」開始。Chit-ê 觀念 koh-chài 發展 seⁿ-thòⁿ，tō án-ne tī 台灣、朝鮮、中國 kap 越南固定 lòh-lâi。Tō chún-chò m-bián 問 che-sī siáⁿ-lâng ê 主意，結果 ē-sái 講是 hō 人 siūⁿ-bē-kàu ê siūⁿ-bē-kàu。

1984 年 2 月，tī 大雪當中拜訪 ùi 京都大學留學時代 tō 交陪做知己 ê 京都產業大學清河雅孝 (KIYOKAWA Masataka) 副教授。5 tang m̄-bat án-ne 坐 óa-óa，講久久，重溫舊情，siàng-sī kā i 請教中國 ê 現狀分析 kap 將來預測。Hit-tong-sī，「中國 chit-chūn chhin-chhiūⁿ 『liáh hô-sîn 紙』 kâng-khoán 吸收包括日本、美國在內，ùì 世界各國來 ê 大筆資金，照 án-ne 50 tang 後，m̄-sī，40 tang 後 ē 發展 kah chiân-chò hám-kó ê 『超級怪物 ê 國家』，絕對 bô-m̄-tiòh。」án-ne 斷定 ê 言語 bô-hoat-tō 放 bē-kì-tit。Chit-má 想起來，ū-íán 是達到超出預測 ê 重點，m̄-sī 一般 ê 見解。

1986 年左右，經過陳永興醫師 ê 推薦，hō 我 tit-tiòh 北美洲台灣人教授協會 ê 美國短期研修 ê 寶貴機會。利用 hit-pái ê 機會參觀 tī Washington DC. ê 國會圖書館。每一種語言 lóng 有圖書館管理人員，用 hit-khoán 母語來歸化 chiân-chò 美國人 ê，tō 分配 hō in hit-khoán ê 人，khòⁿ-tiòh chit-chióng 情形，無意中對 United States of America chit-khoán kā 適當 ê 人 hē tī 適當 ê 位置 ê 包容力表示敬意。Koh chiáⁿ 好運 ê 是，陳永興醫師指名委託我 ài kā 林宗義老師 ê 大作品《精神医学への道—東西文化に跨って (往精神醫學 ê 道路—hāⁿ-kòe 東西文化)》翻譯做中文。

1987 年 3 月，tī 東京外國語大學 hām 恩師王育德老師有交陪 ê tāi-chi，tī 日本發表人無 kah-i ê 言論等，hông 密告，差一點 á 東吳大學 ê 職位 tō 無去。蔡茂豐老師 tau ò-íán，值得 hoaⁿ-hí--ê 是寫悔過書 kap tī chhù 反省 1 tang án-ne ê 處罰，tāi-chi tō teh--lòh-lâi à，chit-tang 安排去法國「留學」。1988 年 1 月 13，tī 法國南部

Angers 基督教系統大學 Université Catholique de l'Ouest 留學 hit-chūn, tī sòe-chhù ê só-chāi 電視新聞 sio-liân-sòa 報導蔣經國突然間死亡 ê 消息。「Hām 中國共產黨 sio-chiàn phah-su, 逃走來台灣 ê 獨裁者蔣介石 ê hāu-seⁿ」 án-ne 微妙表現 ê 快報。

想起來有關台語書寫化 kàu-taⁿ 有「全漢字文」 kap 「全羅馬字文」 ê 「白話字」二派 ê 爭論 chit-pái koh chit-pái。

「全漢字文」 choan-choan 是中國文學出身 ê 人所提倡 ê, m̄-koh 台語 ê 基本語詞 lâi-té bô-hoat-tō 用漢字來表現 ê 真 chē。學者 in tō 用 ták-chióng 假說, tek-ko tau 菜刀替 chia-ê 語詞 tau 漢字 ê 借用字, tō chhin-chhiūⁿ 古早日本 ê 「萬葉假名 (Manyogana) 文」 hām 越南過去 ka-tī 創作 ê 漢字 「字喃 (Chữ Nôm)」 kâng-khoán。

相對 che, 「白話字」主要是台灣本土 ê 基督教長老教會 ê 信徒 in teh 讀包括台語、客語 kap 原住民語 ê 台灣語言 ê 聖經所使用 ê 表記法, hām 留學歐美 ê 語言學專家所主張 ê。Chit n̄g thâu chhiâu-chhek ê 結果, tō 模仿日本話 ê 「漢字 kap Kana sio thàu-lām」, beh 徹底 hō 「白話字」 chiân-chò 台灣字實現過程 ê 過渡期, 提倡「漢字 kap 羅馬字 sio thàu-lām」。Chit-ê 第三方案是由 Hawaii 大學 ê 鄭良偉教授所提倡, 1990 年 thâu-khí-seng ê 教科書《生活台語》(鄭良偉、方南強、趙順文, 自立報系) 具體化來出版, 3 tang 後 ê 1993 年 10 月, 《生活台灣語日本語版》(黃素吟、寺山末吉(TERAYAMA Suekichi) (已經過身 ê 新藤明彥(SHINDO Akihiko))、齋藤齊(SAITO Hitoshi)) 以日本人做讀者, 自費出版。恩師王育德老師 mā 對 chit-ê 觀點表示贊成。

1990 年 9 月初 10, 台北市大安區 ê 金華國民小學 thâu-chit-pái ê 台語課「學講台語」以課外活動 ê 形式實驗性開始。Che-sī 台語 ê 語言教育史, 甚至是台灣歷史上 ê thâu-chit-pái, 是新時代開始 ê 日子。教師是, tī 民間語學學校長期參與台語教育 ê 方南強先生、台灣語文研究會 ê 東吳大學趙順文副教授、台語 ê 民謠指導者 ê 音樂家簡上仁先生 chit 3 ê 人。上課 3 分 2 是會話時間, chhun--ê 3 分 1 是以 gín-á 歌 kap 民謠做中心 ê 藝文時間。借 chit-pái 機會, khò^a-tiòh 台灣 chiân chē 國小 mā giáh-hiūⁿ tòe-pái。特別是宜蘭縣 tī 黃春明先生 ê 指導下, 完成台語教材, 1991 年 3 月開始 ùi 小學 1 年 ê 到國中 2 年 ê 所有 ê 學生 1 禮拜上 1 pái 台語課。Chit 1 tang ē-sái 講是台灣雙語教育 ê 黎明。

Chit-ê 動向 hām 時期 kâng-khoán, 黃春明先生 tī 國民黨政權 ê 強制華語政策之下, 陷入 bô-hoat-tō 用母語思考、表達感情 ê 台灣人 ê 狀態 ê 「失語症」, 發出危險 ê 預警。而且 tī 台灣人 ê 「本土教育」用盡精神 kap 靈魂。因為 án-ne 有可能 kā ka-tī ê 語言 thèh tò-tng-lâi, 放出 ē-tàng 發揚台灣文化 ê 文化論。M̄-koh chiân bô-chhái 是, 黃春明先生 ê 論點欠缺 kā ka-tī ê 語言 thèh tò-tng-lâi, koh 進一步組織書寫語言 án-ne ê 觀點。因為 i ê 語言觀 lâi-bīn, 「國家語」 ê 意識不足。

Án-ne ê 意識先寫 leh 暗示, 2011 年 5 月 24, tī 日本因為作品《さよなら・再見 (ツアイチエン)》, chiân-chò 台灣 ê 中文作家 hō 人 bat i ê 黃春明先生 tī 台南國立

台灣文學館 ê 講演會，當面指責表達意見 ê 成功大學副教授蔣為文，che chiâⁿ-chò「用激烈 ê 言語，大聲指責」，lō-bóe 以損害名譽做有罪判決。Che 所謂 ê「黃春明事件」kap āu-piah beh 敘述 ê「華語 Stockholm 綜合症」ê「依靠症」kan-taⁿ 是冰角山 ê 一角 á niá。

2019 年 1 月初 9，法律化 ê「國家語言發展法」lāi-bīn 規定，「原住民語、台語、客語、華語 lóng 是國家語言，而且平等」，政府機關 tī 必要 ê 時有義務提供 tak-chióng 語言 ê 翻譯者，tū-liáu 已經過身 ê 蔡同榮先生，執政黨 kap 在野黨 ê 國會議員 lóng 無 tī 國會使用 ka-tī 族群 ê 語言報告，kan-taⁿ 用華語報告 niá。

嚴重 ê 是，平常時 giáh-tiòh 台灣人意識大旗 ê 陳芳明、黃春明等文學者、故宮博物院院長吳察密等歷史家、語言學者、語言教育者大多數 lóng 是 chit-khoán pháin-khòan-siūⁿ。In 有「chiâⁿ-chò chhùi-kóng ê 語言，達到日常生活會話 ê 程度，母語 ê 存在意義 tō chiâⁿ 有夠 à」án-ne ê 基本 jīn-bat，m̄-koh 主張「choan-kang beh 組織書寫語言是無必要 ê」。Tō chún-chò 用 ka-tī ê 手 kā ka-tī ê「母語」法律明文化，chiâⁿ-chò「國家語」，mā beh kā i ùi 神聖 ê 地位 giú--lòh-lâi，放棄權利。Chit-ê 人少無贏面，甘願 hō 華語 thiah chiáh lóh-pak，pang-sak 節操 ê 模樣，kan-taⁿ ē-sái 講是因為「Stockholm 綜合症」kā 腦髓燒 pháin--khì ê 語族。

Sī-án-chóaⁿ chit-ê 語族 beh 放棄母語，墮落 tī 華語 ê 環境？Kóng-thàu-ki 是個人 ê 意見，舉 3 ê 理由。第一是確保既得利益，第二是洗腦教育 ê 效果，第三是語言知識 ê 不足。台語 ê chhùi-kóng 語言 m̄-sī 死亡 ê 語言，是 koh 活 leh ê 語言，chit-má koh teh 使用，書寫語言 ê 台語「白話字 (ペーオエジ)」聖經 tī 1881 年，koh-chài-lâi 台語白話字報紙「教會公報」tī 1885 年發行。百年前 tō 已經存在，chit-má mā ài hō i liân-sòa lóh-khì，命脈 bē 斷絕。有 chit-khoán 好材料做基礎，滿足「國家語」ê 必要條件 mā chiâu-chng à，tō 是 chit-chūn。Só-pái 有知識 ê 人 hō bak-chiu kheh-kheh 依靠華語 ê 固定觀念所束縛，放棄 ka-tī ê chhùi-kóng 語言甚至書寫語言，kan-taⁿ 一句話，tō 是 hō「華語 Stockholm 綜合症」所毒害，形成「依靠症」ê 狀態。

Hām che 完全 tò-péng ê 例，應該來 o-ló--ê 是，goân-té 是中國文學學者 ê 呂興昌老師 ê 思考方式。老師 i 經歷清華大學中國文學系、成功大學「中國文學系」，轉向成功大學「台灣文學系」，對 ka-tī 是母語 ê「chheⁿ-mê-gū」感覺 chiâⁿ kiàn-siàu，tō kā chiâⁿ-chò 台灣字 ê「白話字」學 kah chiâu-ûn。根據用白話字書寫 ê 長老教會 ê「教會公報」ê 歷史資料，指導 kúi-lòh-ê 研究生，引導 in 取得學位。I ê 大名 mā ē chiâⁿ-chò 榮譽，留 tī 台灣文學史 téng-bīn。Sūn-sòa 講前中山大學英語講師李勤岸先生 tī 1986 年，tng i ùi-tiòh 政治問題不得已辭職 ê 時，教師人權促進會成立，liáu-āu tī Hawaii 大學鄭良偉老師 ê 指導下，1994 年 thèh-tiòh 碩士學位，thèh-tiòh 博士學位。Tò-tng-lâi 台灣，tī 台灣師範大學台灣文學系 kà-chheh，phah-piàn tī「白話字」復興活動。

我所 chai-iaⁿ，台灣大學、清華大學 ê 語言學研究所 hām 台灣大學、政治大學

ê 台灣文學研究所，sui-bóng 是掛「語言學」kap「台灣文學」ê khǎn-páng，m̄-koh 用「台語」書寫 ê 碩士論文，甚至是博士論文 ê 例 ē-sái 講是無。Sūn-sòa 講張裕宏老師，ùi 台灣大學退休 liáu-āu，用全部 ê 精神出版 2200 頁 ê 《TJ 台語白話小品典 2009 年版》、《TJ 中台字詞典 2023 年版》。Che-sī 戰後 siōng-khí-seng 由台灣 ê 語言學者所編輯 ê 白話字辭典，i ê 名聲應該 ē 繼續流傳 tī 未來 ê 世代。做一句詩句「四十 tang 連 hioh-khùn-jit mā 無 一直向前行」，送 hō 老師。

1991 年 8 月，我 tit-tioh 于先明 siǎn-pái chit-ūi 「貴人」ê 協助，tit-tioh 政治大學 ê 新 thâu-lō。有關歸屬意識是中國 iah-sī 台灣 án-ne ê 國家認同，專任教員 ê 祖籍 tō lī-bē-khui 意識形態 ê 問題。Hit-tong-sī ê 『國立政治大學教職員錄 1991 年 12 月』ê 記載 kā keng khòⁿ-māi，中國籍 kap 台灣籍 ê 比例，tāk-chióng 職位 ê 情形 tī 下面。中國文學系是 21 ê 比 16 ê (以下省略)，教育學系 13 比 8，歷史學系 12 比 5，哲學系 10 比 3，法律學系 10 比 9，政治學系 16 比 8，外交學系 13 比 3，東亞研究所 4 比 3，三民主義研究所 (chit-chūn 是國家發展研究所) 4 比 3，民族研究所 4 比 3，新聞學系 16 比 7，廣播電視學系 7 比 2，英文學系 22 比 18，軍訓教官室 16 比 6，附屬國際研究中心 8 比 5，記錄 án-ne ê 實際狀態。Tāk-ê 單位以中國做祖籍 ê 專任教員 ê 人數 lóng 贏過台灣籍 chiāⁿ chē。1992 年以後，廢除大學 ê 教職員錄 ê 祖籍記載，kan-taⁿ 記載出生地。Só-pái tī 台灣 chhut-si ê 教員將近占 100 %。

根據台灣內政部統計局 ê 調查 (2015 年度)，四大語族 lāi-té 有，台語族群 73 %，客家語族 12 %，原住民族群 2.33 %，ka--khí-lái 台灣語族 87 % khah-ke ê 本省人，kap 華語族群 13 % ê 外省人。Kóng-thàu-ki，政治大學一直到戒嚴令解除 chìn-chêng，採用教員 ê 時完全無 khòⁿ-gāi，考慮 kah chiāⁿ 周密，tó kui pêng lóng 是外省人 án-ne ê 人事布局。

Kà-chheh 當中，chiāⁿ-chò 第二外國語 ê 「初級日本語」是用台語 teh 上課，che tī 政治大學是 kui-si-láng m̄-bat 聽過 ê tāi-chì，一部分 ê 人用 gōng-ngiáh ê 眼光 teh hiòng，無人譴責，平安 bô-tāi-chì。Ài 特別來寫 ê 是，聽講上課 ê 學生 lāi-té siōng-chē--ê 是香港 ê 留學生，in ê 回答是 ē-tàng 學習日本話 koh-ka 台語。以廣東話做母語 ê 人，特別疼惜 ka-tī ê 母語，án-ne ê 語族 tī 世界上是 chiāⁿ 罕見。Tī 百年前 ê 清國時代，hōng chhōa-khì 美國、法國 kap Canada 做苦工，強迫做粗重 ê 廣東話語族 ê 第三代，甚至第四代 kiāⁿ-sun chit-má 分散 tī 歐美各國。In 有 tāk-chióng 國籍，hām chit-chūn ê 中國 kap 中國「普通話」政策 lóng 無關係，tī 家庭內實實在在繼續 teh 使用廣東話。我有真深 ê 感慨，「語言靈魂」ê 存在 hō 人 siūⁿ-bē-hiáu。希望 bô-gōa-kú ê 將來，chhiūⁿ Israel án-ne 分散 tī 世界各地 ê 廣東語族 ê 人 ē-tàng tī tó-chit-tè 土地 tò^a--lòh-lái，建立以 ka-tī ê 語言做母語 ê 國家。

我請 tī 政治大學留學 ê 越南人研究生丁玉蘭小姐做我 ê 家庭教師，1 禮拜 1 pái，2 點鐘，學習越南話。1995 年，以政治大學教授 ê 身分，用「日越兩語 ê 漢字詞 ê 比較研究」做題目 ê 研究計畫，tit-tioh 交流協會研究人員補助金，koh-chài

去日本留學 ê 機會。M̄-koh 個人 ê 都合 bē-tú-hó, 不得已辭退。另外一方面, 有 khah chiàm-koân, tī 我 ê 推薦下中央研究院焯城研究員 ê 助理洪惟仁先生以「小川尚義 (OGAWA Naoyoshi) ê 研究」做題目 ê 研究計畫 tit-tiòh 研究人員補助金, 後來 tō 開始 phah-khui 正式研究 ê 道路。

洪先生 tūg-lâi 台灣 liáu-āu, tī 清華大學 thèh-tiòh 語言學博士, 一直到元智大學 kap 台中教育大學退休 chìn-chêng, m̄-sī chiáh-miâ--ê, 確確實實 chiân-chò 台灣社會語言學 ê 第一人, 真 oah-thiàu。洪先生固執 beh 使用連中國本土 mā-bô teh 使用 ê 「閩南語 (tī 門 ē-kha teh 爬 ê 蟲類人種所使用 ê 語言, che-sī ùi 中原 teh phi-siùⁿ si-kho-ùì-á ê 世界)」, 我 bô-hoat-tō bô 反彈。根據堅定 ê 「國家語」意識, 我感覺 ài 用「台語」來表現 khah 適合。意識 tiòh tī 語言學 chiân 接近 ê Malaysia 語 kap Indonesia 語 ài 分開做二種「國語」, mā 意識 tiòh 北歐語 ê Danmark 語、Sweden 語 kap Norway 語 mā 是 3 種 bô-kâng ê 「國語」。Án-ne 以國家 ê 分別來 hō 語言位置, 是 tī 堅定 ê 「國家語」意識方面 teh 思考。

Chiân khau-sé ê tã-chì, 到 1972 年為止 kap 台灣有正式邦交 ê 日本, 校長 beh hām 台灣 ê 大學 tī 國際交流方面表示好意, m̄-koh 偏向社會主義 ê 教授 tī 多數 ê 國立大學 ê 教授會無論 án-chóaⁿ mā bē-tàng 通過 ê tã-chì 相結合, 台灣 tī 蔣政權反日政策下, 由 téng-bīn 指派 ê 校長, 大多數 lóng 無意願 beh hām 日本 ê 大學積極 thui-sak 國際交流, tō án-ne ùi 戰後到 1997 年, 日本 ê 國立大學 hām 台灣 ê 大學有姊妹校協定 ê 1 間 mā-bô。

台日斷交 liáu-āu, 中國政府 tī 台灣問題方面對日本施壓力, só-pái 日本政府對日本 ê 國立大學 hām 台灣 ê 大學簽訂正式 ê 姊妹校協定, 交換學生, 進行交流 lóng 無允准。

根據 che, 我 chiân-chò 母校論文博士 ê 第 1 人, 決心 beh kòng-phò chit-khoán liām-kháh 狀態, tī 母校 (中嶋嶺雄 (NAKAJIMAMINE Mineo) 校長) kap 政治大學 (鄭丁旺校長) 簽訂姊妹校協定盡 tām-pòh-á khui-lát。Hit-tong-sī 到 tit-tiòh 文部省 ê 正式批准為止, beh 公開 iáu-ū 禁忌。所有 ê tã-chì lóng chiân 祕密, kan-taⁿ 相關人員聚集 tī 中嶋校長 ê 辦公室, 檢討內容, 迎接戰後 thau-chit-pái 日本 ê 國立大學 hām 台灣 ê 大學正式 ê 姊妹校簽字儀式。以後, 日本 ê 各大學 lóng 繼續 kiân goán in-chhōa ê 道路。

中嶋嶺雄校長 tī i ê 任期當中 (1995 年 9 月初 1 到 2001 年 8 月 31) 認為 beh 解讀中文字料, 台灣繁體字 ê 學習是 bē-sái 欠缺 ê, chiân-chò 指導重點 ê 項目, 引入去中文學系, siàng-sī chit-chūn 有關台語方面, tī 大學兼課 ê 講師, mā beh chhiân 姊妹校國立台灣師範大學 ê 教師來做 1 tang ê 交換教授。Kúi-tang 後, hām 文部科學省 ê 請求預算交涉 ê 時, thèh ka-tī 所寫 ê 『3 ê 中國』, 說服文部科學省 ê 辦事官員, 台語 kap 廣東話 ê 專任教師 ê 名額 lóng 增加 1 ê, 迎接 tī 學習 kap 研究方面接受過王育德恩師恩情 ê 筑波 (Tsukuba) 大學樋口靖 (HIGUCHI Yasushi) 教授來

擔任台語課。台語 kap 廣東話 ê 專任教師 ê 界限 tī 戰後 ê 國立大學是 m̄-bat 有 ê 例。

1999 年 8 月，siū-tio̍h 陳明姿教授 ê 重用 kap khan-sêng，tī 系評議會通過。Tī 台灣大學任職當中，chai-ia̍n 前國民黨海外工作委員會副主任 ê 高級幹部何瑞藤先生 kán-ná 是 téng-bīn 指派來台灣大學做教授，感覺 tiòh-kia̍n kap 失望。M̄-koh hoan-thâu kā 想，chiân-chò 台灣大學日本語學系 ê 創立者，tī 日本語學、日本文學甚至是日本文化 ê 人才養成方面，bē-tàng 無承認何先生 ê 貢獻 chiân 大。

排除一部分同事 ê 反對，系評議會通過 tī 台灣 ê 國立、私立大學，越南語、Indonesia 語、泰國語、Malaysia 語等東南亞各語言 ê 開課。Kap 以後 ê 蔡英文政權南向政策 e 人才養成連結 chò-hóe，感覺 ka-tī chiân gâu。用台語舉辦系會議、研究生 ê 討論會是理所當然 ê tāi-chì、設法促進文學院新生歡迎會等公開 ê 場合盡量使用台語。

Sūn-sòa 講，柯慶明教授 ê 要求下，擔任台灣大學台灣文學研究所 thâu-chit-pái ê 白話字 ê 台語講座 1 tang。

Sūn-sòa 講，二戰 chìn-chêng，台灣公立台中初級中學(chit-chūn ê 台中一中) 卒業 liáu-āu，tī 大阪創業成功累積大量財富 ê 林義久會長 tak-tang 寄付 200 萬日票，liân-sòa 3 tang，600 萬，chiân-chò 台灣獎勵金希望交 hō 有強烈鄉土愛 ê 學生，完全委託 hō 我。2008 年 7 月 31，我 tī 台灣大學任職 ê 最後 1 kang，後一任 ê 系主任徐興慶 kap hit-tong-sī ê 文學院長葉國良 chò-hóe 來拜訪系辦公室。原本中國意識 chiân 強 ê 2 ê 人講，台灣獎勵金強調「我 m̄-sī 中國人，是台灣人」有 chiân 強 ê 台灣人意識，khiong-kia̍n hām 中國人意識發生衝突，bô-chhái 林會長 ê 好意，獎勵金 bē-tàng 接過來辦。Chiân 遺憾，聽講自然 tō 取消 à。Che-sī 真 kiàn-siàu ê 回憶。

台日斷交 chìn-chêng tit-tio̍h 文部省獎學金去東京大學留學 ê 台灣大學同事趙玉姬老師 ê ang-sài 黃國彥先生以無記名翻譯者 kā 恩師王育德老師 ê 《台湾—苦悶するその歴史—》翻譯做中文，koh kā 出版，chai-ia̍n chit chān tāi-chì 我 iā tiòh-kia̍n iā hoa̍n-hí，bē-tàng 無 ùi sim-koa̍n-lāi 尊敬 i ê 勇氣。Koh-chài 重複講一遍，王育德恩師 tī 東京外國語大學做兼任講師所擔任 ê 台語講座比 tī 明治大學專任教授所擔任 ê 任何科目 koh-khah 快樂 kúi-lòh 倍。孤孤 kóng-tio̍h「感受 tiòh 生存 ê 意義」，chia-ê 聲音 bô-hoat

-tō 放 bē-kì-tit。Koh-chài 回想 i 在生 ê 話，chiong-kí-bóe bē-tàng tng-khì 故鄉，tī 異鄉過一生，chit-chióng 精神上 ê 「苦悶」ê 聲音 tī 心內產生共鳴。過身 liáu-āu，家族 kā i ê 藏書寄付 hō 東京外國語大學 ê 亞洲 kap 非洲語言研究所 m̄-sī 無原因 ê。應該 ài 表示 siōng 大 ê 敬意是，tī 台灣大學過去 m̄-bat 有 ê 例，kā 包括現任 ê 教授在內，i 所教過 ê 學生聚集 chò-hóe 大規模舉辦趙玉姬老師最後 ê 講課，che mā 是 hông chiân 懷念 ê 回憶之一。

1985 年失去 liáu hān-kòe 日本時代 kap 蔣政權時代，渡過曲折 tōa-éng ê 人生，

值得尊敬 ê 恩師 (1924 年 1 月 30~1985 年 9 月初 9)。王育德 chhut-si 百年，過身 39 年後 ê 2024 年 chò-kì 前一日，tī chhut-si ê 故鄉台南 ê 成功大學舉辦王育德博士追悼國際研討會，做詩句「Mài thî-khàu siàu-liām 吾師 ê 故鄉 有淨土」，送 hō̍ 恩師。請你 an-hioh, m̄-koh 請你堅定保庇達成台灣獨立 ê 「使命」。

Chit-ê lūn-bûn kan-tan hān-tiān tī Ông lōk-tek gián-thó-hōe sú-lōng.
本論文僅限在王育德研討會使用，未經作者同意不得外傳。